

---

# 「海外初旅行」

長根兆半

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

「海外初旅行」

### 【Nコード】

N3056F

### 【作者名】

長根兆半

### 【あらすじ】

ガム公、グミ助、チョコ坊の3人が繰り広げるコメディー小説。

「海外初旅行」

トンチンカン・トンチンカン

トンチキ・トンチキ

トンチキカン

えー、二度目のお会いとなります。

旅は道ずれ世は情け、なんてえ事を申しますが、三人で旅するな、一人が必ずはくれる。なんて事も言います。

そのわりにや、旅って字にや、なんだって人が三人いるんだ。

ま、そんな事言うシトも居ますが、難しいことは学者さんに任せ、この節、海外旅行も盛んになりました。景気がいいのか、どおにもお金の使い道に困っての事か、なんでしたら、お手伝いいたしますが、いずれにしましても、このお、知らない国へ行つて見たいというのは、お迎えの来る前までに、一度はやつてみたいものです。

なかでもお年寄りのツアーなんかは、なかなか楽しそうでいいものです。

心ペえの種のドラ息子も、気いもんだ不良娘も、ま、今じゃ一人前に育ち、自分は会社も終わり、さてと思えば、やっぱり外国でしよう。

楽しい中にも、現地へ行つて見ますと、日本人は鮪を捕り過ぎだとか、鯨を殺すな、なんて事を聞かされます。動物を虐待するな。と言つてる訳なんですが、なにかこう、解るようで解りません。そんな話なんざあ、よく知つてるガム公なんかに言わせますてえと、つてやんだい、こつちや生活だい、手めえらなんざ、遊びで、殺してんじゃねえか。ツて事になるんですが。で、ガム公、チヨコ坊、グミ助の三人も、しょっこりと、四週間も、エゲレスへ行ける事にな

りました。

なんですかこのお、エゲレスってえ国は、遠いんですが、身近に感じます。

地球儀を見ましても、日本から、八・九時間の時差ですから、ほほ、ま、地球の反対側にある国。

「おおい、何で郵便ポストは赤いんだ」

「エゲレスのが赤かったからだい」とか

「じゃ何か、人は右車は左つてのも、そうなのか」なんてまさかと思うようなことを言っ たつもりが

「そうだよ」とガム公が言う とグミ助が、電話のベルな、何でベルか、知ってるか、ベルが作ったからだ。蒸気機関車はワット、背広はセービーロードって町で作られた。なんてグミ助が喋ってる と

「よく知ってんなグミ助」

「そらあ、俺だつて義務教育ぐれえ出たからな」などと、自慢にならない自慢話をしながらも、成田に着いてみま すつてえと、シトでイッパイ、ゾロゾロ、ゾロゾロ並んで、チンタラ荷物の検査 かなんかがあつて

「あらやだ、全部見られる」

「んな事言つ たつて、しょうがねえだろ チョコ、何ンか不都合な事でもあンのかい？」

「ありやしないけど」

「じゃ、いいじゃんええか」

「よかあないわよ」

「なにが？」

「若いのしか入つてないから・・・」

「何が、何ンか、その、若いとまずいのか」

「年に合つたもんならさ、どつかで開き直れるもんだけど、照れちやうじやないか、くつくつて、なに笑つてんのよ、ね、ガムちゃん、なんか言つてよ、このグミに」

そのガム公も、下あ向いて笑つてるもんだから、チョコ坊が

「まったく、男って皆こうだから、やんなっちゃう」

そうやってる間に、検査も終わり、し行機に乗ります。窓際にグミ助、通路側には、慣れたガム公、その間にチヨコ坊、三人才シナ様のように掛けた。掛けたはいいが、じっとしてられない。何かどうというわけじゃないんですが、目の前の簡易テーブルを上げたり下げたり、そわそわしています。やはりなんですね、嬉しい。

それにしましても、あの鉄の塊がふわっと空に浮かぶんですから、初めてん時にや、落ち付かない。落ちないか・・・なんて心配するもんです。グミ助とチヨコ坊も初めてらしく、落ちねえよなあ、なんてガム公に聞いたりする。

「そんな時にやそんな時、設計ミスだから、でえ丈夫だ」なんてガム公がヘンな事を言ったりするもんですから、

「なんだよ、その設計ミスってのは、おっかねえ事、言うなよ」とグミ助がガム公にすがり付いて聞くと、チヨコ坊が

「何で、設計ミスで、大丈夫なわけ」

「自動車の設計ミスで、空あ飛んじやったから」

「なんだい、そらあ・・・」とか何とか、分けの解らん駄洒落なんが言ってる間に、シートベルトの確認があつて、ゲイツと機体が動き出す。ゆうっくりと、小窓の景色が変わっていき、乗務員が救命具の使い方を、スピーカーから流れる声に合わせて、ジェスチャーで説明する。さて、いよいよ離陸滑走路に入ると、エンジンの音がいきなり大きくなったかと思うと、ググググッと、後ろから押されるように体が持っていられる。

お、お、おって勇気が湧いてくる気がします、慣れますと、し行機に乗って、この時が一番気持ちのいいもんです。

スピードが上がって、離陸した瞬間、何んかこの、し行機がズルツと尻から落っこちるんじゃないかと思ってしまうのも、おかしいもんです。

機内を見ますと、いかにも空へ登ってるふうに、前の方が坂上に見える。

小窓から見えていた地球の表面が、だんだんと小さくなって、雲を破って雲海の上。

ここまで来ますってえと、墜落の心配にも、諦めが出てきます。機内ではワゴン車が、弁当と飲み物を配りはじめます。

口々に皆、豪勢だのケチだの言いながら、ガサゴソ食べ始める。グミ助なんぞは、出てきた酒は只なもんですから、何度もお代わりをし

「こう、只で酒え飲ましてくれんだから、ええなあ」

「し行機代に入ってるのよ」

「そうか、飲まなきゃそんだな」なんて、親の敵にでも会ったように飲む。いじましい食い意地も出てくんですが、腹あ一杯になって、酒が回れば、白川夜船ならぬ、浮世離れの雲の上、あー極楽極楽ってな事で、誰もがトロトロってえ眠る。

雲つてのは、下から見ると、モクモクしてるんですが、上から見ても、同じなんで、それがかえって新しいものでも見つけた気にもなります。目えつむって、ウトウトして、この間に、日付変更があったんですが、お三人気付きません。

と、グミ助がいきなり、ガバツと起きて

「なんだいあの音あ」とガム公を起こすと、雷の音だって平気でいたんですが、チョコ坊が、落ちないかい、なんて言って一緒になって小窓を覗いて心配するもんですから、グミ助が、「チョコ坊、あのな、落ちるってえのは、上から下にだろ、俺たちや今、上にいる、だからよ言

うんなら、昇ってこねえかって、心ぺえしろよ。で、ガム兄ィ、こねえよな」なんて、分けの分からない事言って自分もビビってる。

ガム公はガム公で、ああ、とか何とか言って、ばかばかしくって話し相手になつてられない。

「わ、なんだありゃ」いきなりグミ助が小窓に顔を貼り付けています。

「どうしたのよ、また」なあとなく、不安なチョコ坊も小窓に寄

つて行きます。

「見てろ、見てろよ・・・くるぞ・・・来る、ほら来た。見たかチヨコ坊」

「アア、見たよ。ネプタだね、ありやさ」

「何騒いでんだ、二人して」

「ガム兄イ、青森のネプタ、見たことあんだろ」

「ある」

「あれやってんだ、雲が」

ガム公も小窓から見てますってえと、眼下の雲がいきなり、パパツパパツと、蛍光灯に電気のスイッチを入れた時のように光って、ゴロゴロオ。し行機慣れのガム公も、さすがに、これには驚きました。

そうこうしている間に、北極回りの直行便は、やがてスカンジナビア上空にさしかかり、いよいよエゲレスです。着陸の衝撃が、ブンと体にしたきり、スーっと景色が見えたんですが、ここでいきなり乗客が拍手した。

「何で、手え叩くんだ」

「そらあおめえ、設計ミスが、ちゃんと来たんだ、ああ良かったって言う拍手だ」

し行機から降り、シトの後ろにくつついて、キヨロキヨロ歩いて目に入るのは、英語の案内ばかり。

「ネネ、ちよつと、時計見てよ、四時間で来たの、日本から」いきなりチヨコ坊が言っただかと思うてえと、今度はグミ助が

「うわあ、なんだこりゃ、仮装行列か」

そりやまあ、人種の坩堝、メルテンポットのヒースローですから、日本の仮装行列じゃないですが、色々います。頭からすっぽりと黒い布かなんかを被って、ウルウル目エだけ出してる女のシト。見ただけで、頭が痒いくなりそうなターバンを巻いた髭モジャのシト。中あ透けて見えるわけじゃないですが、ネグリジェか天女の羽衣のようなのを着て、見てるこっちがブルツとしそうな女のシト。

カッパじやあるまいし、つむじにお皿のような帽子を乗っけてる男のシト。仮装の遊びか、お祭り騒ぎと、思ってしまうのも、いやはや、世間知らずの海外発旅行。お後がよろしいようで……。さて、終わって一服、ラドッコイ。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3056f/>

---

「海外初旅行」

2010年10月20日18時43分発行